

レジメン登録フォーマット

申請年月日	平成23年11月16日	使用開始日	
登録診療科	血液内科	申請医師	化学療法委員会承認年月 平成 23年 11月
レジメン名	アザシチジン(皮下注用)		
疾患名	骨髄異形成症候群 急性骨髄性白血病	適応の備考	
適応分類			
1コース日数	28 日間	総コース数	有効な限り コース 催吐性リスク 中等度

抗がん剤投与量・投与日 アザシチジン75mg/m² day1-7

治療スケジュール・投与日程(投与日は●) (day)

投与順	ルート・方法	薬剤名	投与量	投与時間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
1	なし	注射用水100mL	1 本 / body		●	●	●	●	●	●	●																					
	皮下注射	アザシチジン注	75 mg / m ²		●	●	●	●	●	●	●																					
	1Vあたり、4mLの注射用水で懸濁する。 均一な懸濁液になるまで激しく振り混ぜる 投与量を2本の10mLシリンジに2等分にする 投与量100mg(4mL)までは1本のシリンジで払い出す(分割しない) 投与直前に均一に再懸濁させる 減量基準は下記参照																															
	経口投与	グラニセトロンゼリー1mg	1 包 / body		●	●	●	●	●	●	●																					
	アザシチジン投与の1時間前																															

【投与上の注意】

原則、皮下投与する。出血傾向等で皮下注が困難な場合は点滴静注「アザシチジン(点滴用)」も可能。

調製後、1時間以内に投与を終了すること。

皮下注の場合、複数個所に分けて皮下注する(ただし、4mLまでは1箇所可)。

配合禁忌:5%ブドウ糖液、ヘタスターチ(ヘスパンダーなど)及び重炭酸塩を含む溶液

【減量基準】

※血液学的検査値による投与量調節

1)治療開始前値がWBC数 $\geq 3000/\text{mm}^3$ 、好中球数 $\geq 1500/\text{mm}^3$ 、血小板数 $\geq 75000/\text{mm}^3$ の全てを満たす患者の場合

《当該サイクルの最低値》

好中球数 $< 1000/\text{mm}^3$ または 血小板数 $< 50000/\text{mm}^3$

《次サイクルの治療開始の延期・減量基準》

①治療開始前値からの減少量の50%が回復した後、次サイクルを開始。

②14日以内に回復しない場合、次サイクル投与量を50%に減量。

2)治療開始前値がWBC数 $< 3000/\text{mm}^3$ 、好中球数 $< 1500/\text{mm}^3$ 、血小板数 $< 75000/\text{mm}^3$ のいずれかに該当する患者

《当該サイクルの最低値》

白血球数、好中球数または血小板数のいずれかが治療開始前値の50%以下に減少

《次サイクルの治療開始の延期・減量基準》

①治療開始前値からの減少量の50%が回復した後、次サイクルを開始。

②14日以内に回復しない場合、以下に従う。

ア. 骨髄細胞密度が50%を超えるときは、次サイクルも100%量で継続

イ. 骨髄細胞密度が15~50%で、21日以内に回復しない場合、次サイクル投与量を50%量に減量する。

ウ. 骨髄細胞密度が15%未満で、21日以内に回復しない場合、次サイクル投与量を33%量に減量する。

※腎機能及び血清電解質による投与量調節

①当該サイクルの血清重炭酸塩が20mEq/L(静脈血)未満の場合は、次サイクル投与量を50%量を減量する。

②当該サイクルのBUNまたは血清クレアチンが施設基準値上限を超え、治療開始前値の2倍以上に上昇した場合は、

施設基準値または治療開始前値に回復した後、次サイクル投与量を50%量を減量する。